

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや  
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
会長 吉田 節美  
幹事 石黒 正則  
会報・雑誌委員長 大 口 弘和

No. 30

ロータリーの夢を追い続けよう

FOLLOW YOUR ROTARY DREAM

1998～99年度 RI会長 ジェームスL・レイシー

## きょうの例会

第796回 平成11年3月9日(火)

クラブフォーラム

名古屋名城RAC 会長 樋口 慎一郎君

” 幹事 遠藤 賢彦 君

## 先週の記録

第795回 平成11年3月2日(火)

晴

◆“君が代”

◆“それでこそロータリー”

◆黙 想 ～持病の克服について～

◆出席報告

会 員 71(67)名 出 席 58名

出席率 86.57%

前々回 2月16日 (修正出席率) 100%

◆ゲスト紹介

米山奨学生 李 敏華さん

” (名北RC) 呉 佳貞さん

◆今月の誕生日祝福

丸山君(3/6)、石黒君(3/18)、舎人君(3/19)

竹内君(3/20)、成田君(3/21)、水谷君(3/30)

青山君(3/31)、水野(民)君(3/31)

## ニコボックス

秋山 茂則君 明日3日は桃の節句、雛祭の日です。また耳の日でもあります。耳が遠くなった、近くなったという事は聞きづらくなることを云います。全く正反対の云い方で同じ意味なんて変ですネ、“遠くて近くは男女の仲”なんてのもあります。

木原 喜造君 オランダの春はもう少しです。

西川 豊長君 昨日ウグイスが鳴きました。

酒井 淳二君 卓話、感謝して。

足立 一成君、在田 忠之君、二村 聡君、萩原喜代子さん、林 哲央君、池田 隆君、伊藤 健文君、河村 政孝君、菊池 昭元君、小林 明君、小杉 啓彰君、小山 雅弘君、久保田 皓君、久野 峯一君、松島 孝彰君、三好 親君、水野 賀績君、中井 常雄君、中根 三郎君、西野 英樹君、大口 弘和君、大

谷 和雄君、鷺谷 龍男君、佐久間良治君、佐野 寛君、鈴木 正男君、鈴木 理之君、田中 昭二君、魚津 常義君、山田 壽勝君、山本 英次君  
弥生3月春ですネ。

青山 敏郎君、水谷 祥督君、成田 良治君、竹内 眞三君 誕生日祝い。

水野民也君 誕生日祝い。夫人誕生日祝い。

松居 敬二君 弥生3月春ですネ。夫人誕生日祝い。

田部井良和君 忘れずにすみます。夫人誕生日祝い。

尾関 武弘君、吉田 節美君 結婚記念日祝い。

浅井 誠寿君 名古屋城の梅も仲々です。歩一歩天守 抽んず梅の径。結婚記念日祝い。

丸山 昌宏君、舎人 経昭君 誕生日祝い。結婚記念日祝い。

吉田 玄君 夫人誕生日祝い。結婚記念日祝い。

石黒 正則君 弥生3月春ですネ。誕生日祝い。結婚記念日祝い。

## 石黒幹事報告

1. 本日例会終了後、ライラ実行委員会を開催致しますので、担当の方はそのままお残り下さい。
2. ロータリーの友3月号が来ておりますので、お帰りにお持ち下さい。

## 古稀のお祝い



今月20日に70歳を迎える、竹内 眞三君に会長よりお祝い金と花束が贈呈されました。

## 吉田(節)会長挨拶

各地で梅の便りが聞え始め、間もなく气象台より桜前線の予報も入って来る頃でございます。桜前線と違って景気の前線は依然日暮れて道遠しの感じで政策不況と言う名の寒冷前線が行く手に立ちふさがり、景気は春に向うどころか厳寒期に逆戻りの感じで不況と言う悪質ピークスが猛威を振るって居る、この頃であります。早くも3月の声を聞く様になってしまいました。

3月のひな祭りは3が重なるところから重三の節句とか、桃の節句、或は雛の節句、又「上巳の節句」とも言われます。

ひな祭りの始りは流しひなであったと言われ、歴史をたどって見ると平安時代、昔からの日本の伝統と中国伝来の行事が混り合って生れたと言われて居ります。

3月3日の上巳の日は厄日とされ、その厄を祓う為に「巳の日の祓ひ」と言う儀式が行われ紙で作った人形で体をなでて、けがれを祓い、その人形を川に流すと身体のけがれがとれると言われ、それがのちの、ひな人形として飾られる様になったと言われて居ります。

さて、3月はローターアクト月間であります。来週、名城RACの会長・幹事より御話がある予定となっておりますので、簡単に概略のみお話しさせていただきます。

ローターアクトクラブはロータークラブが提唱する18才～30才までの青年男女に依り、構成されます世界的青年団体のクラブで、1968年に発足致しました。そしてこのローターアクトの目的は青年男女の、それぞれの地域社会に於いて、色々なニーズととり組み、親睦と奉仕活動を通じ人々とよりよい信頼関係を押し進める為の機会を提供する事にあります。21世紀に向い、ローターリーの将来の為、国家社会の為に若者を育成し、新しい指導者として社会に送り出せる様にその骨組を作りあげる為にも次の世代に投資することこそが最も重要な社会への奉仕ではないかと思えます。

高齢化少子化が急速に進み、21世紀に向けて大きな若い力の活動が大変重要な事であり、その投資を怠れば高齢化少子化問題は否応なく我々の社会を脅かし続ける事になると思えます。

若い力を育てる事の重要性を再確認する為に、この様な月間を設けている事を認識していただく様お願いして挨拶とさせていただきます。

### ◆講演

“百貨店あれこれ”

会員 酒井 淳二君



百貨店生活40年を迎え、少し百貨店についてふれてみたいと思います。

現在、百貨店には日本百貨店協会というのがあり、全体の約85%、平成10年度末で139社、303店舗が加盟しております。売上げ規模としては9兆1,773億円、これは平成3年度のバブル絶頂期から比べますと15%～20%のダウンとなっております。平成3年度から比べますと協会への加盟は39社、50店舗ほど増えておりますがこれは平成6年より発行された「全国共通百貨店商品券」の効用が大きく、従来加盟していなかった西武グループ、そごうグループがこの商品券の導入により協会へ加わり、我々三越も福岡に店をオープンする等、この2～3年で新しい店も出来、現在139社とふくれ上がりました。売上げとしては、9兆1,773億円とはいってもバブル期から2割弱落ち込み、コンビニエンス業界がすでに6兆円を越え、自販機業界ですら4兆円と売り上げをのばすなか、百貨店がトータルでかかってもコンビニと自販機をたした数字には勝てないのが、我々にとって残念なことです。

百貨店のイメージ・観点から、日本の特徴として、それぞれの地域の中心に位置したランドマーク的な存在でパブリックなスペースを持ち、物売り中心の欧米に比べて、文化的催し、作品展など文化の情報発信基地といったところでしょうか。

又、永年栄店の食品売場を担当した経験から、日本と海外の百貨店の違いは、海外にも大きな食品売場はありますが、ほとんどの百貨店には食品売場がないのが実態で、あったとしても、その国の民族が主食となる物が中心に置かれ、異民族の食物はあまりないのに対し、日本の百貨店では食品を大変大切に扱うと同時に、和・洋・中と異民族の食文化をどんどん取り入れ、世界でも有数の食生活のリッチな国と言えます。

他には、遊園地などアミューズメント設備が置いてあることと、感謝と奉仕の精神・ホスピタリティーを持ち、又外商部隊として地域に密着したサービス機能を持ち生活全般を商うというのが各社標榜して来たことです。

最近の小売業界の状態はどうかと申しますと、同業間で競争はしておりますが手を組んで一緒に出来ることはしようと盛んに動いており、大きな例が先程申しました「全国共通百貨店商品券」で、各店で共通して使えるとして、独自の商品券よりも今でははるかに多く出回っております。配送でも物流費をおさえる為それぞれ提携した店で配送を一つのシステムとして処理していったり、衣料品で使うハンガーも三越グループ、他店グループ関係なく同じものを全て共有する形で物流(ロジステック)の改革システムを動かそうという方向にむいております。それ以外ではお互い各社競争はしておりますが、強いて言うとも競争の仲よりも競合の仲といった感じが色濃く出てきております。

“買い物”とは主婦が毎日の食材を買うなど義務的要素の部分が強く、かたや百貨店は“ショッピング”という、楽しい場所という使い分け、本来物を買わなくても、満足してお帰り頂くことをテーマに“顧客満足”



を最終目的として我々は経営してきました。本来の百貨店の役割、業務特性は生活文化の提案をしながら商いをする事にあります。

- Way of life 暮らしの仕方
- Quality of life 暮らしの盾の提案

↓

こんな暮らしが出来ると、ライフスタイルの提案

生活文化とは、潤いと感動をもたらす商品を提供し暮らしに情緒を与えるもの。色々な生活を楽しみたい人の為に常に新しいライフスタイルを提案し、人と人との対話を通して商いをするのが私共小売業の接客・販売の原点であると思います。

百貨店とはトレンドの風を早くとらえて、時代と共に顧客の要望、生活様式に合わせてかわっていく“変化の店”ではないでしょうか。

6年間実務をして参りましたが、先頃特別案件という難しい仕事を仰せつかり、更に三越が大きく発展していくべく努力し、これからも過ごして参ります。

#### ◆帰国挨拶

米山奨学生 李 敏華さん

こんにちは。私は台湾から来た李敏華と申します。この一年間、ずっとお世話になりました。学校の授業の日と一緒に、毎月の例会はあまり出られなくて、皆さんとの触れあいのチャンスが減ってしまい、とても残念でした。

今回のスピーチ、何について話したらいいかと中山信夫先生に聞いたら、「何でもいいよ」と答えてくれました。そこで、私は、ロータリーや日本のイメージについて、ちょっとだけ話したいと思います。

ロータリーというのは、一体どういうグループでしょうか？正直に言うと、今でもはっきり分かりませんが、いわゆる社会福祉活動の協力をするだけではなく、国際的な交流も積極的に取り入れることであろうと思います。

ところで、去年の千種ロータリークラブのクリスマスパーティで、私は日本のサラリーマン、特に社長の方についての印象が随分変わりました。昔は、日本のサラリーマンといえば、働きバチというイメージが強く、しかも社長の方は、常に厳しい顔をして、頭の中は「商売、商売」としか思わない「ドラマに出て来る社長」のイメージを持っていました。しかし、去年のクリスマスパーティで、「スーパーチャージャーズ」というバンドが数曲演奏しました。「なるほど、皆さんの頭には商売だけではなく、いろいろな趣味を持ち、豊かな生活を送っている。」と思いました。

ここで、特に感謝しなければならないのは、一年間ずっと、私を世話して下さいました中山信夫先生です。初めて先生と出会ったのは奨学生のオリエンテーションでした。その時、ドキドキしながら、中山先生の隣りの席に座って、密かに先生の方を覗いたら、先生は腕を組んで、笑わずにじっと前を見つめていました。その時、私の心の中は「あらま、何と恐い人でしょう?!」と思っていました。会場の中で、他の奨学生とカウ

セラーは何となく楽しそうな会話を交わしていました。一方、こちらの二人は、沈黙を続けていました。急に、先生は「皆、何を話しているのかね?」と言い出して、私には答えようとしても答えられない質問でした。でも、それから、一見厳しそうな、無口な中山先生は、じつは優しく、ユーモアに満ちている人ということがよく分かりました。

短いですが、ここで皆さんに出会えたことは、台湾に帰っても忘れません。長い間、皆さんにお世話になりました。どうも有り難うございました。



会長より、李さんに記念品と花束が贈呈されました。

#### 例会変更のお知らせ

- 名古屋和合RC 3/24(木)、職場例会の為、中部日本放送(株)放送センターにて
- 名古屋瑞穂RC 3/25(木)、I.D.M.の為、場所は未定
- 名古屋大須RC 3/25(木)、職場例会の為、名古屋刑務所にて12時～
- あまRC 3/29(月)、春の家族会の為、3/27(土)、犬山方面にて

#### ライラニュース!! No.3

当第2760地区のライラは、1990～91年度故中村繁男ガバナーの熱意ある提唱により、1992～93年度に『ライラ(小)委員会』が発足しました。

第1回は1992～93年度岡崎東RCのホストにより「歴史に学ぶ」のテーマのもと、51名の受講生を迎え岡崎大樹寺にて開催されました。その後回を重ねるたびに受講生が増え、特に野村ガバナーノミニがライラ(小)委員長として開催された1996～97年度ライラセミナーは、地区全クラブ登録により受講生178名、ロータリアン200名、計378名の参加によりセミナーが開催されました。

今年度のライラセミナーは、来る3月13日(土)・14日(日)の2日間「愛知県美浜少年自然の家」において、尾西RCのホストにより『今、子供たちが危ない』のテーマのもとに多くの受講生の参加が予定されています。来年度我千種クラブがホストを勤めますので皆様のご支援ご協力を宜しく願います。

第2760地区 ライラ(小)委員会  
副委員長 中山 信夫

◆次回例会(3月16日)  
IM報告

# 青少年教育と社会の関わり



地区ローターアクト(小)委員会委員長 石川 敬

いま日本で教育改革が進もうとしている。その改革の基本は英国の教育改革に学ぼうとしているようだ。ただ英国の改革で重視された「個別学校の自治的経営」と「父母の学校アクセス権の確立」という要素が日本改革では軽視されているとのことである。

聞くところによれば、英国では地方教育委員会の権限は大幅に縮小されて、各学校にその運用の権限が任されていることである。すなわち、学校には学校運営理事会がある。また父母には、学校情報を知る権利や学校の進路変更を申請する権利などが与えられている。日本とは大違いである。

日本における教育改革の中心課題は、いじめ・暴力・非行・不登校の教育現状をなんとしても改革したいという事実である。英国における問題の中心が学力向上にあったのとは基本的に状況を異にしているという点である。しかし、父母や国民が現在の学校のあり方に強い不信と批判がある点は同じようである。ただ日本では、こうした不信・批判が学校・教師に向けて集中しているのに対し、英国では当時の官僚機構の官僚統制に向けられていることである。

日本で教育的事件が発生すれば、決まって教師や学校または父母が非難の対象になる。モノ・カネ・ヒトを動かす権限を有し、一番の責任のある教育官僚機構は非難からなぜか免れている。英国は逆である。教育活動を官僚機構が統制していることが、学校の自由・創造性・自治を抑え、父母や住民らの要求や参加を排除してきたのである。そして、改革問題では改革される主役が逆転されている。本来真っ先に改革されるのは、画一教育を徹底した官僚機構に向けられるべきであるのに、いまだに官僚機構とその任命された審議会が改革案をまとめている現象をどう考えたら良いのか理解することが難しい。そこには現在の教育問題が社会の中であって、極めて

深刻な事態にあるという認識。教育的改革の自己責任のあり方が何かボケてはいないか。社会のニーズがいまどこにあるのか。今一度考え直す必要がある。

確かに改革の方向として「画一的の打破、自由な個性の重視、意欲と柔軟な発想、多様性ある工夫」など言葉は立派に発言されている。しかし、このような言葉が教育現場に登場してきたのは今に始まったことではない。では、今なぜ教育の現状がこれらの言葉の逆になっているのか。それは言葉はあっても官僚機構は「指導・助言」を行政指導の名のもとに、事実上「指揮・命令」として、異様に強い権限で教育統制をしているからである。いま日本では、これらの行政指導教育が抜本的に機能しない状況にまで追い込まれている。今日ほど教育の世界で、自主性・創造性という個性が求められているときはない。ここでも規制緩和は確実に必要となって来ている。

今の若者達の行動を慎重に分析した現場教育者の話によれば、いじめの問題も登校拒否の問題も、解決法はひとつであるようだ。子供達は、尊敬出来る大人を求めているということである。親の目から見て、子供が誤った方向に行きつつある時は、子供は自分を理解してくれる大人、または尊敬に値する大人を求めているという事である。それもたった一人いれば良いのに、今はそれすら難しいようである。子供が父親を尊敬に値するかどうか疑問を抱く時期がある。この大事な時期にいまの日本の母親たちは、己の夫である子供の父親を尊敬している姿を、子供に見せ続けていないのである。いや、子供に父親ダメ論を見せ続けていないかどうかである。若者達の不幸は、日本では多く母親のせいとも考えられるゆえんである。いま一度、青少年教育の中で「家庭教育」のあり方を見直してほしいと願うものである。